

Z-1:ランチオンセミナー

カクタス・コミュニケーションズ株式会社

開催日時・会場 9月3日(火曜日) 12:10-13:10 B201(2階)

英国で導入された「インパクト評価 (Impact Assessment)」 の動向から学ぶ新しい研究評価と広報戦略への示唆

研究の学術的評価にとどまらず、社会的インパクトを大学評価に取り入れる動きが起きています。日本と同様に国費による大学への研究助成が大部分を占めている英国では、世界に先立って2014年に社会への還元を意識した「インパクト評価」を盛り込んだ研究評価枠組み (Research Excellence Framework 2014) が導入されました。この動きはアジア地域にも影響を与え、オーストラリアや香港でも同様の「インパクト評価」が始まっています。日本でも科学技術政策の現場で議論されはじめており、将来的に何らかの形で「社会的インパクト」という評価軸が日本の研究評価・大学評価に組み込まれてくる可能性があります。英国における「インパクト評価」では、大学が7年に一度提出するインパクト・ケーススタディの量と質の評価が大学への予算配分に影響を与えます。本セミナーでは英国の複数大学のインパクト担当者に実際にインタビューを行った結果をもとに、インパクト評価はどのような経緯で導入され、各大学が導入に際しどう対応しどのような評価を受けたのか、具体的な事例を紹介しながら、日本にも導入されたら何が起きるのかを想定しつつ、インパクト評価の考え方を説明していきます。後半では研究の社会的インパクト拡大にも関連が深く、現在の日本の大学の国際的なブランド力向上に役立つ最新の研究コミュニケーションの世界的なトレンドとベストプラクティスを紹介しながら、日本の大学が今後取り入れるべき研究広報のアイデアを議論していきます。インパクト評価や研究広報についてよく知らない方にもわかりやすい内容です。ぜひご参加ください。

オーガナイザー

カクタス・コミュニケーションズ株式会社



カクタス・コミュニケーションズ株式会社は、学術コミュニケーションサービスを提供するリーディングカンパニー、カクタス・グループの日本法人です。カクタス・グループは2002年の創業以来、世界173カ国、20万人以上の研究者をはじめとする著者にサービスを提供してきました。個人の研究者をはじめ、大学・研究機関、学協会・ジャーナル、製薬企業の国際化およびブランディングのために、英語・日本語両言語に対応した英文校正、学術翻訳、メディカル・コミュニケーション、学術PRコンサルティングおよび海外プロモーションサポートをご提案いたします。

講演者

湯浅 誠： カクタス・コミュニケーションズ株式会社
代表取締役



大学を卒業後に渡英後、インド・ムンバイが本社のCactus Communicationsに就業。日本法人の設立に携わり、現在カクタス・コミュニケーションズ株式会社の代表取締役を務める。大学・研究機関、学協会など日本のアカデミアに国際化支援事業に長く携わっており、現在はカクタス・グループにおいて日本・韓国・中国・アメリカ・イギリス・インド・シンガポールの全拠点におけるグローバル・ブランド戦略を統括。

Harini Calamur : Cactus Communications Pvt. Ltd.
Content Director,
Research Communication Services



Harini Calamur works at the intersection of digital content, technology, and audiences. She is a content professional with 20+ years of experience in devising content solutions in various formats, that use the most appropriate technology mix, to deliver entertainment, education, and news to diverse audiences. She has devised business strategies, and led content initiatives that excite audience interest, spark conversations, enable collaboration and alliances, and deliver growth on all parameters. She has worked across media, forms, and formats. She is a columnist, and visiting faculty at leading management and communication institutes.